

【A年】

聖霊降臨後第十八主日

特定二十二

主よ、主の家族である教会を、絶えることのない恵みのうちに
お守りください。どうか主の守りによってすべての災いを免
れ、良い行いをもって熱心に主に仕え、み名の栄光を現すこ
とができますように、主イエス・キリストによってお願いいた
します。 アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第五章 一節から」

1 わたしは歌おう、わたしの愛する者のために
そのぶどう畑の愛の歌を。

わたしの愛する者は、肥沃な丘に

ぶどう畑を持つていた。

2 よく耕して石を除き、良いぶどうを植えた。

その真ん中に見張りの塔を立て、酒ぶねを掘り
良いぶどうが実るのを待った。

しかし、実ったのは酸っぱいぶどうであった。

3 さあ、エルサレムに住む人、ユダの人よ

わたしとわたしのぶどう畑の間を裁いてみよ。

4 わたしがぶどう畑のためになすべきことで

何か、しなかつたことがまだあるというのか。

わたしは良いぶどうが実るのを待ったのに

なぜ、酸っぱいぶどうが実ったのか。

5 さあ、お前たちに告げよう

わたしがこのぶどう畑をどうするか。

囲いを取り払い、焼かれるにまかせ

石垣を崩し、踏み荒らされるにまかせ

6 わたしはこれを見捨てる。

枝は刈り込まれず

耕されることもなく

茨やおどろが生い茂るであろう。

雨を降らせな、とわたしは雲に命じる。

7 イスラエルの家は万軍の主のぶどう畑

主が楽しんで植えられたのはユダの人々。

主は裁き（ミシユパト）を待っておられたのに

見よ、流血（ミス・パハ）。
正義（ツエダカ）を待っておられたのに
見よ、叫喚（ツエアカ）。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第八〇編 十四節〜十九節

- 14 万軍の神よ、立ち帰ってください＝ 天から見下ろし、目を留めてこのぶどうの木を顧みてください
- 15 あなたが自分で植えられた苗と＝ 強められた若枝を守ってください
- 16 ぶどうの木を切り倒して焼いた者は＝ み顔の怒りに触れて滅びる
- 17 あなたの手があなたの右に立つ人の上に＝ あなたが強められた人の子の上にあるように
- 18 わたしたちはあなたから離れることはありません＝ 生かしてください、み名を呼び求めます
- 19 万軍の神なる主よ、わたしたちを新たに＝ み顔の光を照らし、救ってください

使徒書

朗読者 「使徒書はフィリピの信徒への手紙第三章十三節から」

13 兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、14神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を指してひたすら走ることです。15だから、わたしたちの中で完全な者はだれでも、このように考えるべきです。しかし、あなたがたに何か別の考えがあるなら、神はそのことを明らかにしてください。16いずれにせよ、わたしたちは到達したところに基づいて進むべきです。

17 兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいく人々に目を向けなさい。18何度も言ってきたし、今また涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。19彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことでか考えていません。20しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。21キリストは、万物を支

配下はいかに置くことさえできる力ちからによって、わたしたちの卑いやしい体からだを、御自分ごじぶんの栄光えいこうある体からだと同じ形かたちに変かえてくださるのです。

朗読者 「使徒書しとしょを終わおります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主しゅは皆みなさんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖せいマタイによる福音書ふくいんしょ第二だい一章しやう三三節以下しりに記しされた主しゅイエス・キリストの福音ふくいん。主しゅに栄光えいこう」

会衆 「主しゅに栄光えいこうがありますように」

33 「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人しゅじんがぶどう園えんを作り、垣かきを巡めぐらし、その中なかに搾しぼり場ばを掘ほり、見張みはりのやぐらを立て、これを農夫のうふたちに貸かして旅たびに出でた。34さて、収穫しゆくわくの時ときが近づちかづいたとき、収穫しゆくわくを受け取るために、僕われたちを農夫のうふたちのところへ送おくった。35だが、農夫のうふたちはこの僕われたちを捕つかまえ、一人ひとりを袋ふくろだたきにし、一人ひとりを殺ころし、一人ひとりを石いし

で打ち殺ころした。36また、他の僕しとたちを前まえよりも多く送おくったが、農夫のうふたちは同じ目めに遭あわせた。37そこで最後さいごに、『わたししの息子むすこなら敬うやまつてくれるだろう』と言いって、主人しゅじんは自分じぶんの息子むすこを送おくった。38農夫のうふたちは、その息子むすこを見て話はなし合った。『これは跡取りあととだ。さあ、殺ころして、彼の相續そうぞく財産ざいさんを我々われわれのものにしよう。』39そして、息子むすこを捕つかまえ、ぶどう園えんの外そとにほうり出して殺ころしてしまった。40さて、ぶどう園えんの主人しゅじんが帰かえって来きたら、この農夫のうふたちをどうするだろうか。41彼らかれは言いった。「その悪人あくにんどもをひどい目めに遭あわせて殺ころし、ぶどう園えんは、季節きせつごとに収穫しゆくわくを納おさめるほかの農夫のうふたちに貸かすにちがいない。」42イエスは言いわれた。「聖書せいしょにこう書いてあるのを、まだ読よんだことがないのか。」

『家を建てる者の捨てた石、

これが隅すみの親石おやいしとなった。』

これは、主しゅがなさったことで、

わたしたちの目めには不思議ふしぎに見える。』

43だから、言いっておくが、神かみの国くにはあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実みを結むすぶ民族みんぞくに与あたえられる。

司祭 「主しゅに感謝かんしゃ」

会衆 「主しゅに感謝かんしゃします」